

社寺林に対するアンケートに回答して下さった住民の皆様へ

社寺林に関する卒業研究を行なうにあたり、アンケート調査に回答して下さった住民の皆さまに心よりお礼申し上げます。

また、神社の歴史に関する資料をご提供して下さった安養寺町の村本様と中島の宮田様、その他にご協力いただいた方々のお名前をすべて挙げることはできませんが、皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

私は大学院に進学予定ですが、今後も学生生活で学んだことを活かし、日々精進して立派な成人へと踏み出していこうと思います。今回、卒業論文を書き上げた経験から学ぶことは多く、今後の人生の大きな糧になるものと思われまふ。この経験を忘れることなく日々邁進していく所存です。

アンケート結果の掲載について

アンケート封筒に同封した「アンケート調査の説明」用紙の下部に記入してあった通りに本研究でのアンケート調査結果(卒業研究の一部)を Web 上に掲載します。(第 4 章の図 4-5~12 は個人情報に関わる内容のため、ここでの掲載では除いています。)

このアンケート結果の掲載は 2015 年 2 月までの予定です。何かご意見等がございましたら下記の連絡先にご連絡下さい。

連絡先 金沢工業大学 円井研究室

円井基史

メール：mmarui@neptune.kanazawa-it.ac.jp

TEL：076-274-7823

金沢工業大学 円井研究室

2014 年 3 月 川添 亮

白山市周辺の水田地帯における社寺林の役割について

－神社の緑と周辺住民の意識に関する調査－

研究の背景と目的

社寺林は普段は忘れがちな存在だが、他の緑地と比較すると長年維持されてきた樹林であり、周辺住民に対しての繋がりや役割等を持っていると考えられる。しかし、近年では管理者の高齢化や後継者不足等により、旧来のような保全管理が困難になりつつある。そのため、これからの社寺林の維持・管理を検討する際には、社寺林の現況や周辺住民の意向を把握することが重要である。

そこで本研究では社寺林の周辺住民に意識調査をし、社寺林の役割についての調査・考察を試みることを目的とする。今回は景観上周辺から観易い立地であり、比較的緑の残存状況が良く、周辺住民の神社の緑の意識が高いと考えられる白山市周辺の水田地帯に着目した。

卒業論文の構成

目次

第1章 序論

- 1-1 本研究の背景
- 1-2 本研究の目的
- 1-3 社寺林に関する既往研究調査
- 1-4 本研究の構成
- 参考文献

第2章 水田地帯に立つ社寺林の分布と緑の規模の調査

- 2-1 はじめに
- 2-2 社寺林の分布とタイプ分類
- 2-3 緑被率と敷地面積調査
- 2-4 まとめ

第3章 社寺林を構成する樹木や周辺環境の調査

- 3-1 はじめに
- 3-2 調査方法
- 3-3 清金中宮神社
- 3-4 若宮八幡神社
- 3-5 富樫郷八幡神社
- 3-6 中島神社
- 3-7 神田白山神社

3-8 宇佐八幡神社

3-9 まとめ

参考文献

第4章 周辺住民の社寺林に対する意識調査

4-1 はじめに

4-2 アンケートの配布場所とその周辺調査

4-3 アンケート用紙の準備

4-4 投函と回収

4-5 アンケートの集計

4-6 集落別の考察

4-7 まとめ

第5章 金沢市街地の研究結果を内含した考察

5-1 はじめに

5-2 金沢市街地の社寺林について

5-3 地域による社寺林の比較考察

5-4 まとめ

参考文献

第6章 結論

6-1 本研究の総括

6-2 今後の課題

謝辞

付録

第 4 章

周辺住民の社寺林に対する意識調査

- 4-1 はじめに
- 4-2 アンケートの配布場所とその周辺環境
- 4-3 アンケート用紙の準備
- 4-4 投函と回収
- 4-5 アンケートの集計
- 4-6 集落別の考察
- 4-7 まとめ

4-1 はじめに

本章では選定した社寺林の周辺に住む住民を対象に社寺林についての意識調査を行う。これは周辺住民が社寺林について、どのように感じ、また認識しているかを把握することを目的としている。

調査の方法はアンケート調査とし、社寺林周辺の集落全体の住民を対象とするが、集落の住民が少ない場合は他の集落の住民にも意識調査をする。アンケートは一世帯に4枚同封して郵便受けに投函し、同封した返送用封筒を用いて回収する。アンケートの集計時には集落別の考察も行うため、住宅地図を参考に住宅ごとに番号を記し、アンケート封筒に記入した番号と同じ住宅に投函する。

アンケートの回収数を上げる工夫としてボールペンと研究の詳細を述べている用紙を同封する等の工夫をした。また、配布予定の地域内に地図に記載されていない新築等の住宅があった場合のために、予め予備の封筒を2〜3通用意して投函する。(ただし、住宅の明確な位置が地図上で把握できない場合があるため、集落別の考察の際には予備封筒の結果を除外する。)

第3章の調査結果と本章の調査結果は第5章の地域における社寺林の役割を考察するための基礎的なデータとなる。

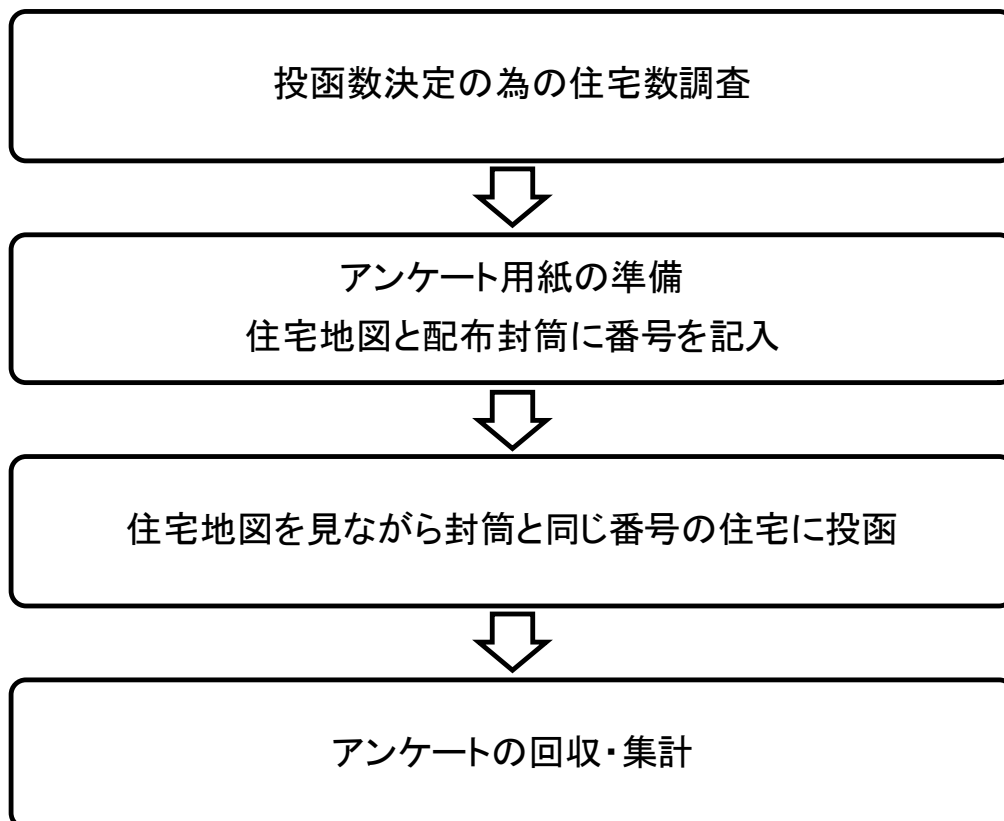


図4-1 アンケート調査の流れ

4-2 アンケートの配布場所とその周辺環境

意識調査の対象地域は第3章と同じ6社とし、配布地域を図4-1に示す。清金中宮神社、神田白山神社、宇佐八幡神社は神社周辺の住宅数が少ないため、他の集落にも投函する。また、若宮八幡神社は周辺に複数の集落があるため、周辺の「A:行町」、「B:日向」、「C:七原」にそれぞれ投函する。

清金中宮神社と若宮八幡神社は各集落から神社を観ることはできるが、神田白山神社の「B:鶴来桑島町」は神社と集落の間に街路樹があるため、Bの集落から直接神社を観ることは困難である。また、宇佐八幡神社は神社が中心タイプであり、高さがある樹木がないため「B:藤波2丁目」から神社を観ることは不可能である。

清金中宮神社



神田白山神社



宇佐八幡神社



若宮八幡神社



中島神社



富樫郷八幡神社



●: 対象の神社、○: 他の神社、○: 配布範囲

図4-2 アンケートの配布場所

アンケートの集落別の配布予定数を表 4-1 に示す。中島神社と富樫郷八幡神社は集落別の考察は行わないが、投函・集計がし易いように神社周辺の集落を東西に分けて(富樫郷八幡神社の場合は西が荒屋町、東が道法寺町)投函し、分析する。2013 年 12 月上旬から中旬までに投函し、回収の目安を 12 月下旬とした。

表 4-1 神社周辺の配布予定

選定した神社	配布場所	配布予定数
清金中宮神社	清金1丁目	23
	清金2丁目	10
	福正寺町	20
神田白山神社	安養寺町	31
	鶴来桑島町	51
若宮八幡神社	行町	65
	日向	85
	七原	23
中島神社	東	58
	西	48
富樫郷八幡神社	荒屋町	32
	道法寺町	50
宇佐八幡神社	藤木町	28
	藤波2丁目	43
合計		567

4-3 アンケート用紙の準備

アンケート用紙のサイズは A3 用紙 1 枚とし、それに両面印刷をしたものとした。本研究では島津の研究と比較考察するため、金沢市街地で用いたアンケートの質問項目を一部抜粋した。島津のアンケートを表 4-2、本研究のアンケートを表 4-3 に示す。本研究で用いるアンケートの質問項目は基本情報として性別・年齢・居住歴・職業の 4 つと、社寺林の認識を問う 3 項目、日常的な繋がりを問う 3 項目、神社の緑に関して問う 2 項目、社寺林の歴史、自由記述欄の計 10 問とする。また、島津のアンケートから抜粋した質問項目は問 1「(神社の名前)を知っていますか」、問 9「日常生活の中で社寺林は役立っていると思いますか」、問 10「以下の項目について社寺林があることでそれを感じるか評価して下さい」、問 12「社寺林は保全・保護すべきだと思いますか。また、そう思う理由があればお書き下さい」である。

表 4-2 島津のアンケート用紙の質問項目

基礎情報		年齢、性別、居住歴、居住地	
社寺林の認識	問1	(神社の名前)を知っていますか。	
	問2	子供のころにその神社で遊んだ経験や思い出はありますか。	
	問3	その神社は地域の風土や文化を感じる身近な場所の一つだと思いますか。	
行事について	問4	その神社で行われる行事を知っていますか。また、どのような行事なのか簡単に構いませんのでお書き下さい。	
	問5	その神社での行事を見たことや参加したことがありますか。	
	問6	神社の行事を楽しみにしていますか。また、そう思う理由があればお書き下さい。	
日常的な繋がり	問7	通勤や散歩など日常生活の中で社寺林を目にすることはありますか。	
	問8	日常生活の中で社寺林の近くを通ったり、中に入ったりしますか。また、それはどのような場合が多いですか。	
	問9	日常生活の中で社寺林は役立っていると思いますか。また、そう考える理由があればお書きください。	
神社の緑について	問10	以下の質問項目について社寺林があることでそれを感じるか、5段階で評価して下さい。	
	問11	社寺林は地域の景観を作ることに貢献していると思いますか。また、そう思う理由があればお書き下さい。	
	問12	社寺林は保全・保護すべきだと思いますか。	

問10			
1	夏の涼しさ	6	緑の豊かさ
2	冬の暖かさ	7	自然や四季の変化
3	騒音軽減による静けさ	8	鳥の声や昆虫の音色
4	空気が澄んでいる	9	住み心地の良さ
5	風の心地よさ	10	町の美しさ
11	生活の潤い	12	厳かな雰囲気
13	歴史・風土		

表 4-3 本研究で使用するアンケートの質問項目

基礎情報	性別 年齢 居住期間 職業
社寺林の認識	問1 (神社の名前)を知っていますか。
	問2 訪れる頻度はどの程度ですか。また、昔(小さい頃)訪れた頻度についてもお答え下さい。
	問3 訪れる目的は何ですか。また、昔(小さい頃)訪れた目的についてもお答え下さい。(複数回答可)
社寺林の日常的な繋がり	問4 ○○神社はこの地域のランドマーク(象徴、目印)的存在だと思いますか。また、理由があればお書き下さい。
	問5 日常生活の中で社寺林は役立っていると思いますか。また、そう考える理由があればお書き下さい。
	問6 社寺林の機能・役割についてどう思うかお答えください。
神社の緑	問7 以下の項目について社寺林があることでそれを感じるか評価して下さい。
	問8 社寺林は保全・保護すべきだと思いますか。また、そう思う理由があればお書き下さい。
社寺林の歴史	問9 ○○神社についての歴史や成り立ちなどを御存知でしたら下記に記載をお願いします。
自由記述欄	問10 最後に社寺林について、ご意見・ご要望がございましたら、下記にご自由に記載をお願いします。

問6 質問項目	1.感じる	2.やや感じる	3.どちらでもない	4.あまり感じない	5.感じない
自然的価値(都市・地域の中での緑地、生物多様性など) ・かなりある ・ある ・どちらとも ・あまりない ・ない	1	2	3	4	5
住民の心の拠り所(参拝、信仰など) ・かなりある ・ある ・どちらとも ・あまりない ・ない	1	2	3	4	5
災害避難場所(災害時が有った場合の避難場所など) ・かなりある ・ある ・どちらとも ・あまりない ・ない	1	2	3	4	5
その他の機能・役割(そう思うものがあればお書き下さい) ・かなりある ・ある ・どちらとも ・あまりない ・ない	1	2	3	4	5
問7 質問項目	1.感じる	2.やや感じる	3.どちらでもない	4.あまり感じない	5.感じない
夏の涼しさ	1	2	3	4	5
冬の暖かさ	1	2	3	4	5
騒音軽減による静けさ	1	2	3	4	5
空気が澄んでいる	1	2	3	4	5
風の心地よさ	1	2	3	4	5
緑の豊かさ	1	2	3	4	5
自然や四季の変化	1	2	3	4	5
鳥の声や虫の音色	1	2	3	4	5
住み心地の良さ	1	2	3	4	5
町(地域)の美しさ	1	2	3	4	5
生活の潤い	1	2	3	4	5
豊かな雰囲気	1	2	3	4	5
歴史・風土	1	2	3	4	5

金沢工業大学円井研究室 川添亮
2013 年 12 月

神社の緑に関するアンケート調査

私は石川県の水田地帯における神社の緑(社寺林、鎮守の森、社叢)についての卒業研究を行っています。地域における社寺林の役割を周辺住民の方々の意識や認識から明らかにすることを目的としています。

神田白山神社周辺に住んでおられる住民の方々にアンケート調査を行い、その意見を研究に反映させたいと考えております。お忙しい中だとは思いますが、ご協力頂ければ幸いです。

アンケートの回答内容は、研究以外の目的で使用いたしません。

＊以下について、該当するものに○を付けて下さい。

性別	男	女
年齢	20代以下	30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上
居住期間	10年未満	10～20年 20～30年 30～40年 40～50年 50～60年 60～70年 70年以上
職業	農家 会社員 公務員 自営業 主婦 学生 無職	その他()

問 1 神田白山神社を知っていますか。

1. はい
2. いいえ

問 2 神社を訪れる頻度はどの程度ですか。 また、昔(小さい頃)訪れた頻度についてもお答え下さい。

現在(最近)
・ほとんど毎日 ・週に 2～3 回 ・週に 1 回 ・月に 1 回 ・ほとんど行かない

問 3 神社を訪れる目的は何ですか。 また、昔(小さい頃)訪れた目的についてもお答え下さい(複数回答可)

現在(最近)
・参拝 ・清掃活動 ・地域の祭り ・散歩 ・子どもの遊び ・集会
・その他()

昔(小さい頃)
・参拝 ・清掃活動 ・地域の祭り ・散歩 ・子どもの遊び ・集会
・その他()

問 4 神田白山神社はこの地域のランドマーク(象徴、目印)的存在だと思いますか。 また、そう考える理由があればお書き下さい。

その理由:
1. はい
2. どちらともいえない
3. いいえ

問 5 日常生活の中で社寺林は役立っていると思いますか。 また、そう考える理由があればお書き下さい。

その理由:
1. 役立っていると思う
2. どちらともいえない
3. 役立っていると思わない

問 6 社寺林の機能・役割についてどう思ってお答えください。

自然的価値(都市・地域の中での緑地、生物多様性など)
・かなりある ・ある ・どちらともいえない ・あまりない ・ない

住民の心の拠り所(参拝、信仰など)
・かなりある ・ある ・どちらともいえない ・あまりない ・ない

災害避難場所(災害時が有った場合の避難場所など)
・かなりある ・ある ・どちらともいえない ・あまりない ・ない

その他の機能・役割()
(そう思うものがあればお書き下さい)
・かなりある ・ある ・どちらともいえない ・あまりない ・ない

問 7 社寺林があることでそれを感じるか評価して下さい。

質問項目	1.感じる	2.やや感じる	3.どちらでもない	4.あまり感じない	5.感じない
夏の涼しさ	1	2	3	4	5
冬の暖かさ	1	2	3	4	5
騒音軽減による静けさ	1	2	3	4	5
空気が澄んでいる	1	2	3	4	5
風の心地よさ	1	2	3	4	5
緑の豊かさ	1	2	3	4	5
自然や四季の変化	1	2	3	4	5
鳥の声や虫の音色	1	2	3	4	5
住み心地の良さ	1	2	3	4	5
町(地域)の美しさ	1	2	3	4	5
生活の潤い	1	2	3	4	5
豊かな雰囲気	1	2	3	4	5
歴史・風土	1	2	3	4	5

問 8 社寺林は保全・保護すべきだと思いますか。 また、そう思う理由があればお書き下さい。

その理由:
1. はい
2. どちらともいえない
3. いいえ

問 9 神田白山神社についての歴史や成り立ちなどを御存知でしたら下記に記載をお願いします。

問 10 最後に社寺林について、ご意見・ご要望がございましたら、下記にご自由に記載をお願いします。

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが同封の封筒にアンケートを入れ、お近くのポストに投函して下さい。
出来れば、12 月 20 日(金)までに投函をお願いします。

質問等がございましたら、下記の連絡先へお願いします。
連絡先:金沢工業大学 円井研究室 4 年川添亮 携帯:080-5409-7708

図 4-3 アンケート用紙

4-4 投函と回収

アンケートの投函と回収結果を表 4-4 に示す。アンケートの配布数は全体で 567 通を予定していたが、空き家や投函拒否等で実際に投函した数は 530 通となった。返信結果として 234 通の返信があり(回収率 44%)、合計で 400 人の回答を得た。回収率に関しては一世帯の家族数は把握できないため、返送用封筒にアンケートの記入が 1 枚でもあった場合は一世帯の回答があったものとする。また、返信があった封筒の中で、アンケート用紙が白紙の場合、返信封筒の番号が塗りつぶされて解読不明の場合があったが、これらも回答があったものとして回収率に含んだ。(ただし、集落別の集計では予備の封筒と同様に住宅の明確な位置関係が把握できないため除外する。)

表 4-4 から神社周辺の配布場所別の回収率は離れた集落に投函していない中島神社と富樫郷八幡神社の集落の回収率が 5 割を超える結果となった。

表 4-4 アンケートの投函と回収結果

選定した神社	配布場所	実際に配布した数(通)	封筒の回収数(通) [人]	回収率(%)	備考
清金中宮神社	清金1丁目	23	11[19]	36	
	清金2丁目	9	3[4]		
	福正寺町	18	4[6]		
神田白山神社	安養寺町	33	19[34]	42	予備封筒の返却有(1通)
	鶴来桑島町	51	16[30]		
若宮八幡神社	行町	62	20[33]	34	予備封筒の返却有(1通)
	日向	63	24[40]		
	七原	23	7[13]		
中島神社	東	53	29[48]	59	白紙の返却有(1通)
	西	49	31[53]		白紙の返却有(1通)、予備封筒の返却有(1通)
富樫郷八幡神社	荒屋町	31	16[26]	52	予備封筒の返却有(1通)、白紙の返却有(1通)
	道法寺町	48	25[45]		番号の解読不明封筒有(1通)、予備封筒の返却有(2通)
宇佐八幡神社	藤木町	26	15[29]	43	
	藤波2丁目	41	14[20]		
合計		530	234[400]	44	



図 4-13 回収したアンケート

4-5 アンケートの集計

回答者の男女比は少し男性が多く、年齢は 50～70 代が多い結果となった。職業は主に会社員、主婦、無職(定年退職含む)が多く、居住期間は 10～20 年と 30～40 年が特に多かった。

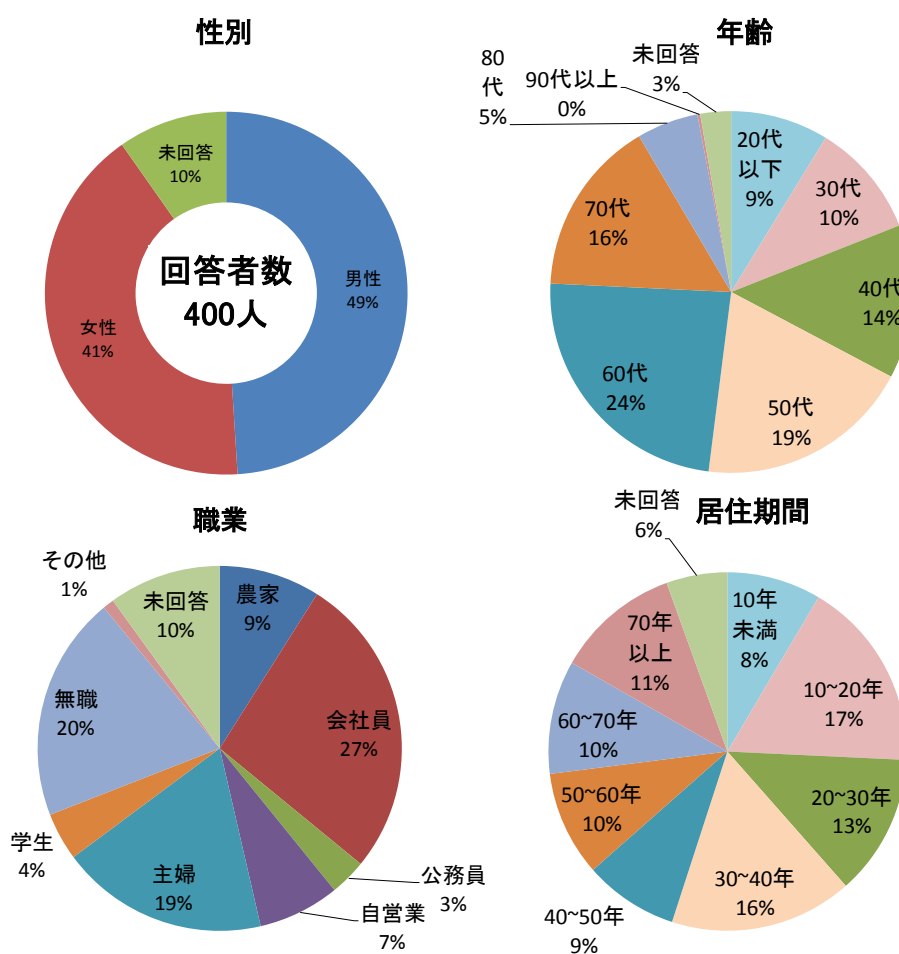


図 4-14 回答者の基本情報

問1と問2は神社の認知度と神社に訪れる頻度についての質問である。全体の対象神社の認知度は8割を超えたが、神田白山神社、富樫郷八幡神社、宇佐八幡神社の認知度が少し低い結果となった。これは集落別の分析でも述べるが、神社付近の住民は選定した神社を知っているが、神社から離れた場所や別の集落の住民は神社を知らないという意見が多かった。

問2は現在(最近)と昔(小さい頃)の訪れた頻度についての問いであり、現在は全体的に殆ど行かない傾向であると分かった。昔に関しては50~70代の回答者が遊び場として訪れる頻度が高かった傾向にあった。

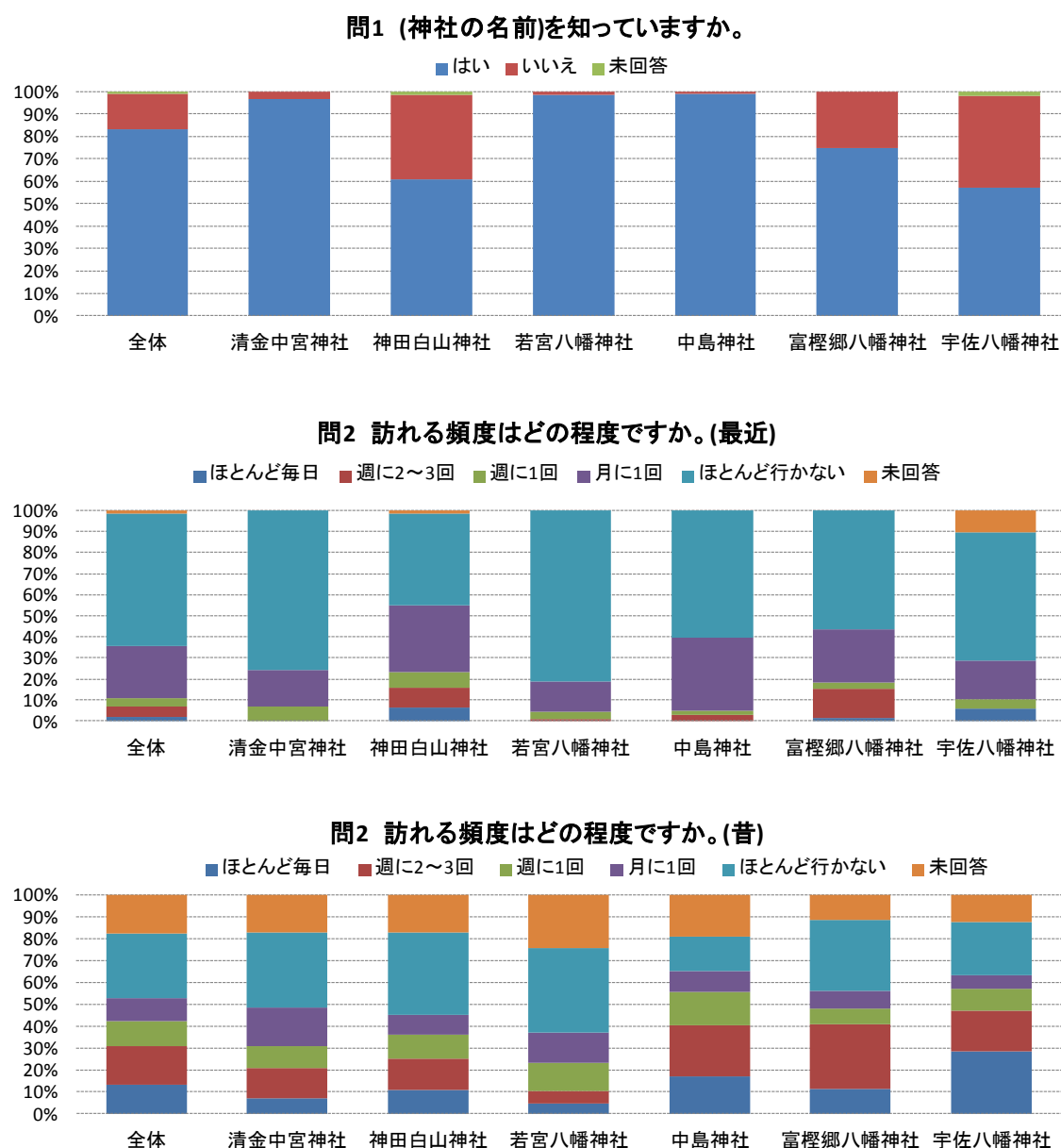


図 4-15 問1と問2のアンケート結果

問3と問4は神社を訪れる目的と神社がランドマーク的存在かを問う質問である。問3の調査結果は複数回答有りのため神社別の回答数の積み上げで示した。現在の訪れる目的は参拝、清掃活動、地域の祭りが主な回答であった。また、小さい頃は地域の祭り、子供の遊びが主な回答であり、年代によって訪れる目的が少し異なることが分かる。その他の訪れる目的に関してはラジオ体操や町内行事が多かった。

問4は水田地帯における社寺林の景観や周辺環境によつての違いを知るために設問した。問4から神社周辺に住宅等が隣接していない完全独立タイプの清金中宮神社がランドマーク的存在としての肯定的な回答が多く、集落の真ん中に立地してある中心タイプの宇佐八幡神社は肯定的な回答が少なく、神社の立地条件によつての違いが明らかになった。

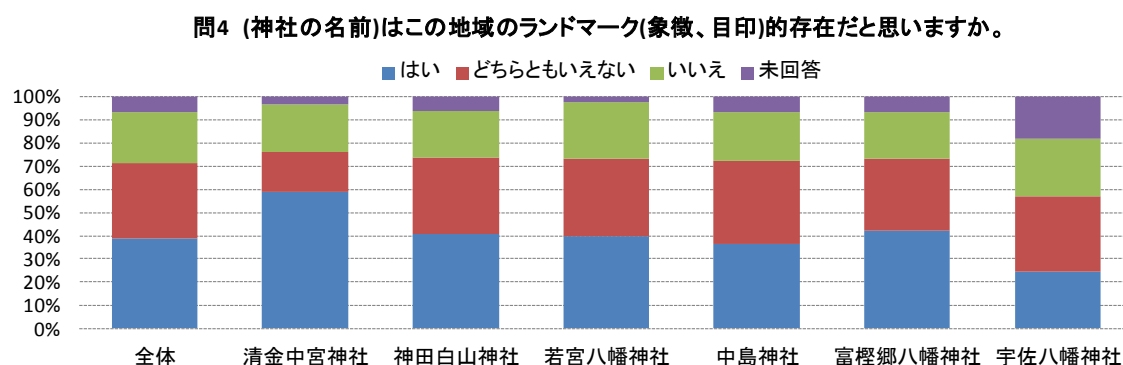
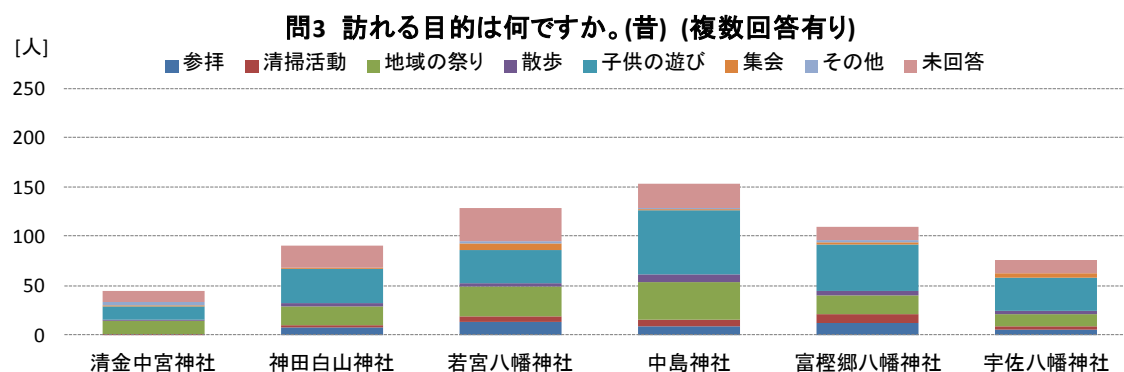
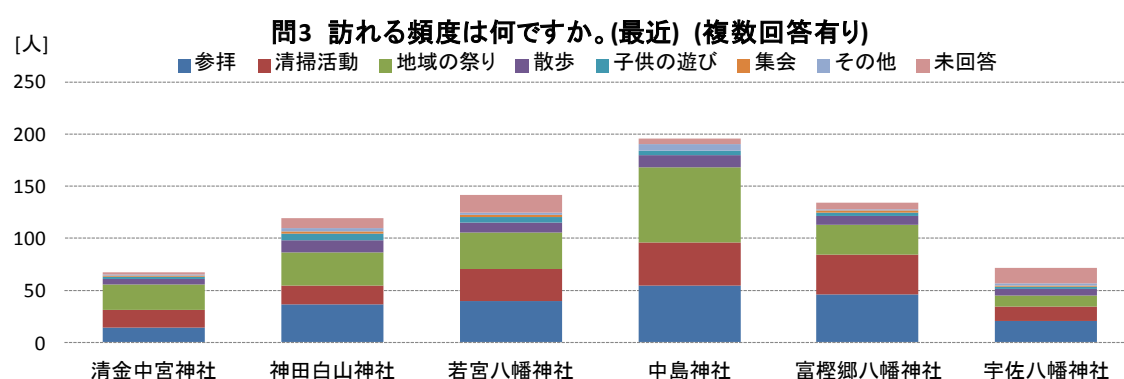


図 4-16 問3と問4のアンケート結果

問5は社寺林の日常的な繋がりについての質問、問6は社寺林の機能・役割の中で自然的価値、住民の心の拠り所、災害避難場所について5段階で評価してもらった。また、その他の項目を設けて、住民の方が社寺林の機能・役割について他にあるものがあれば回答してもらった。神社別では特に緑の規模が大きい神田白山神社が昆虫採集ができるや防風林になる等の意見があり、役立っていると回答した人が多かった。

問6では自然的価値と住民の心の拠り所の機能・役割の評価が高かったが、災害避難場所としては低い結果となった。災害避難場所の神社別に関しては、敷地面積が広い神田白山神社と若宮八幡神社、完全独立タイプの清金中宮神社が避難場所としての機能・役割があるという回答が少しあったが、それ以外の神社は敷地面積が狭いため肯定的な意見は殆どなかった。また、中島神社に関しては敷地内が良く整備されているが、神社の隣にある小学校が災害避難場所として使われるという意見が多く見られた。その他の機能・役割は未回答が多かったが、回答者の主な内容として、子供の教育の場や散歩道等があった。

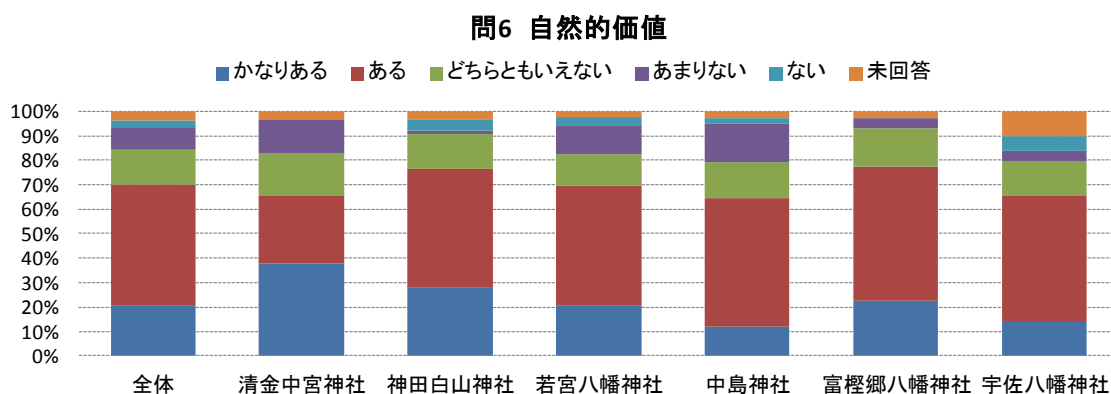
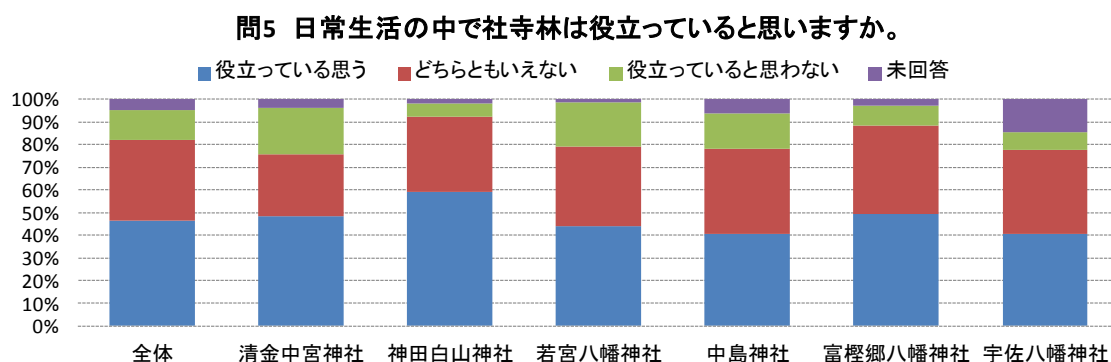
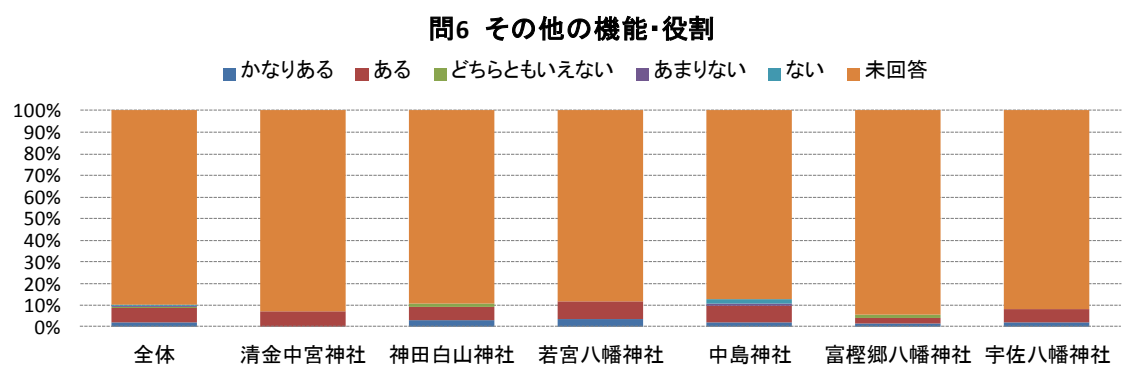
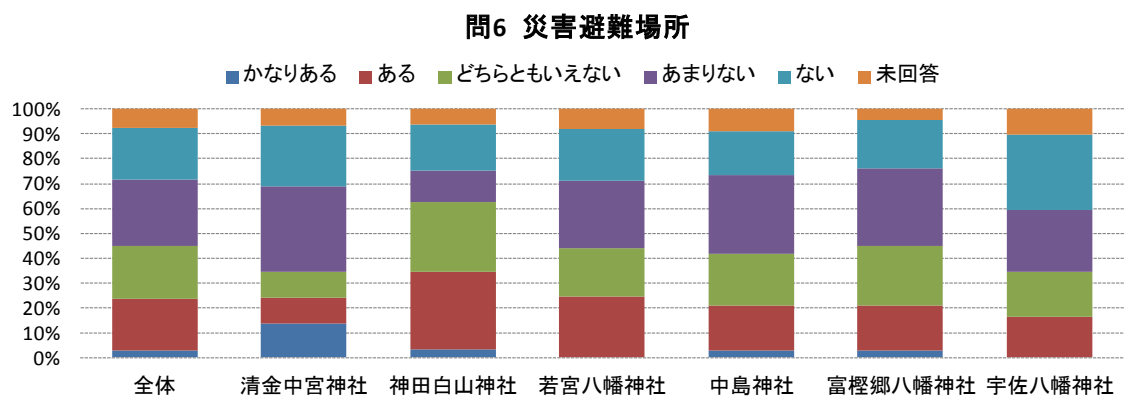
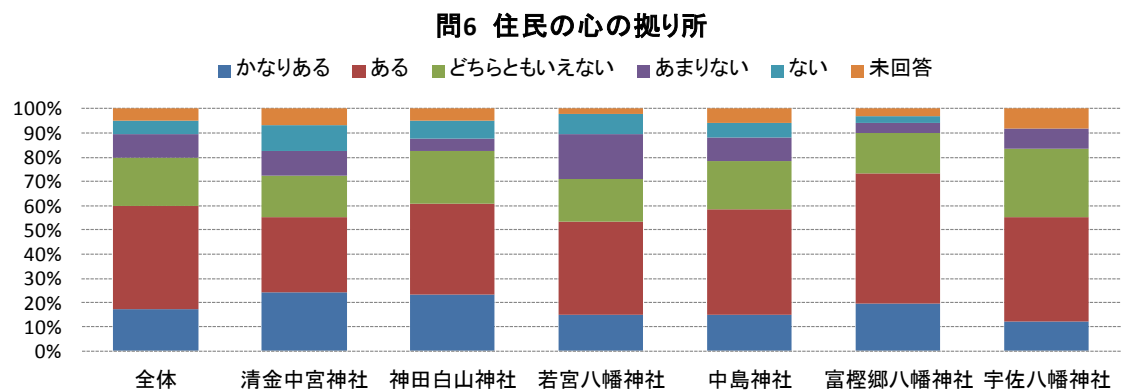


図4-17 問5と問6のアンケート結果



その他の機能・役割の主な内容：子どもの教育・遊び場、散歩道、祭り、地域の繋が
り、地域の文化遺産

図 4-18 問 6 のアンケート結果の続き

問 7 では社寺林があることで以下の質問項目を感じるかを 5 段階で評価してもらい、社寺林の存在効果を多目的に分析する。全体的に夏の涼しさや緑の豊かさ等の自然的な質問項目の回答が良い結果となった。また、厳かな雰囲気と歴史・風土の回答結果から神社と社寺林の関係が深いことが分かる。神社別では緑の規模が最も大きい神田白山神社が総じて高い結果となった。

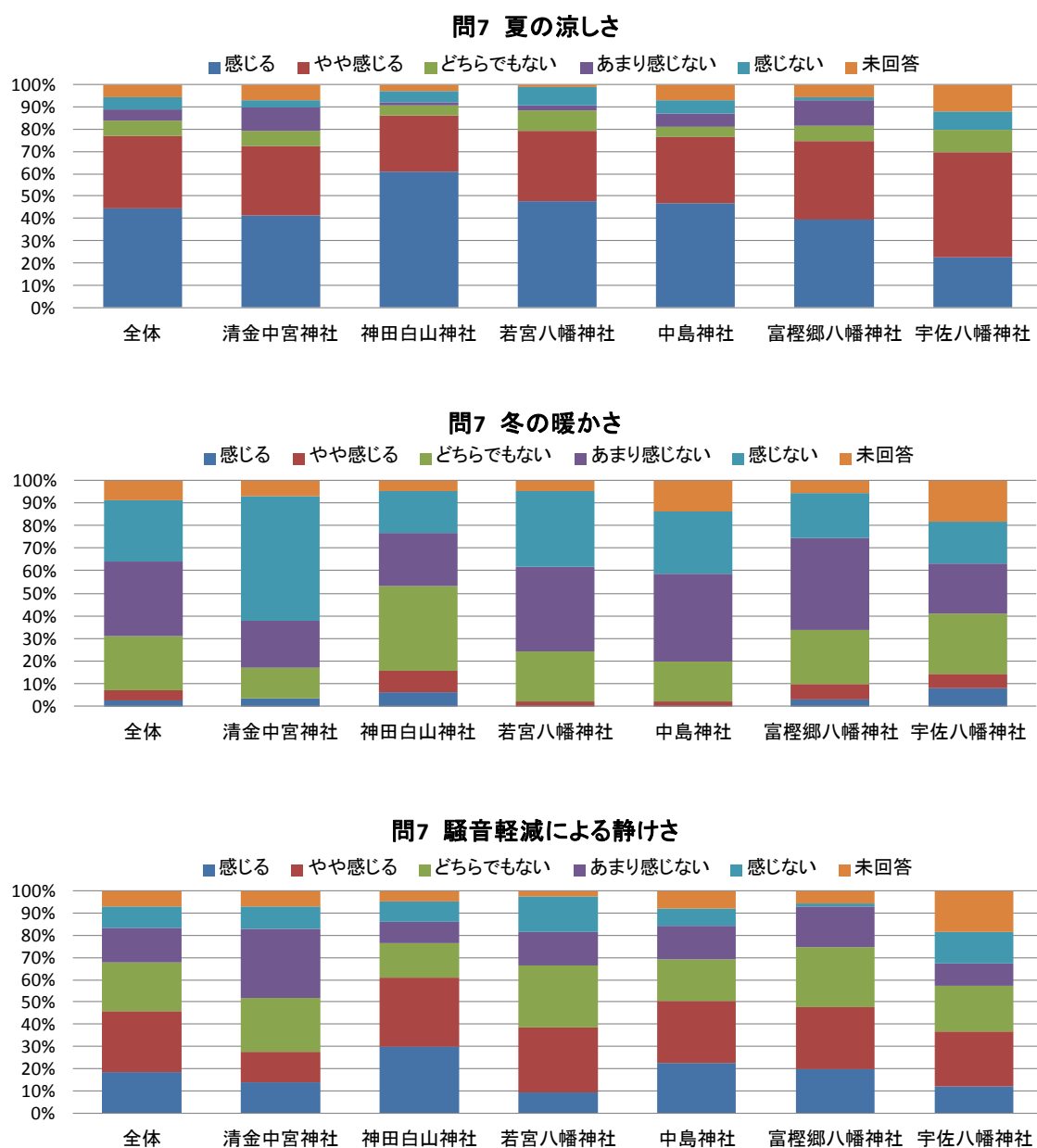


図 4-19 問 7 のアンケート結果

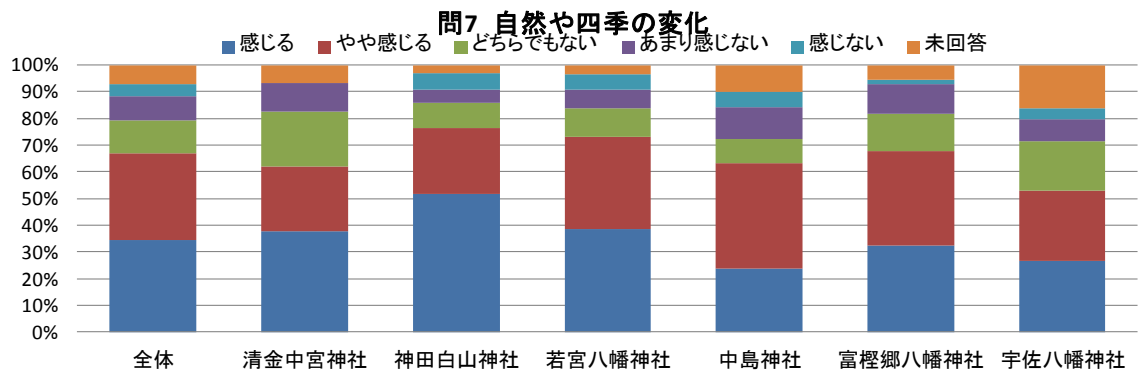
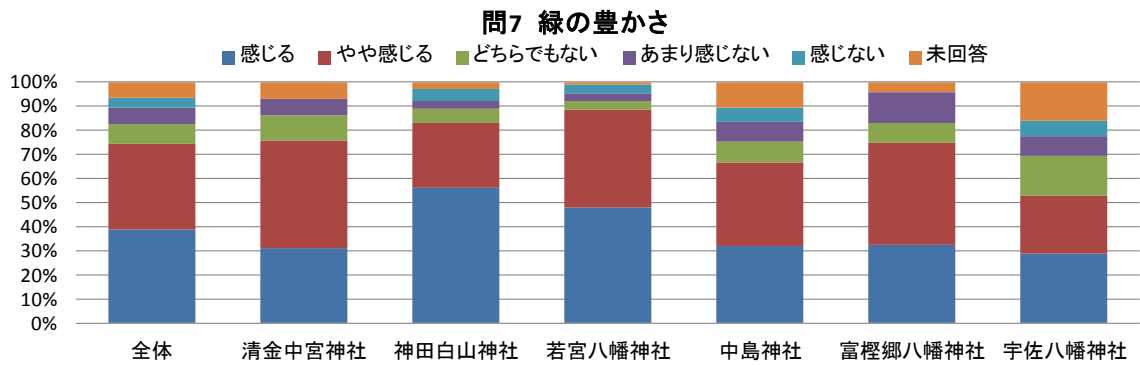
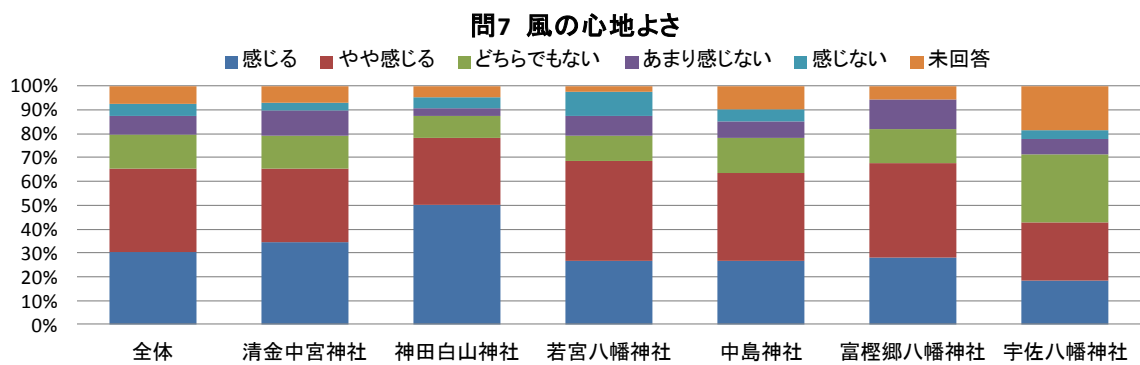
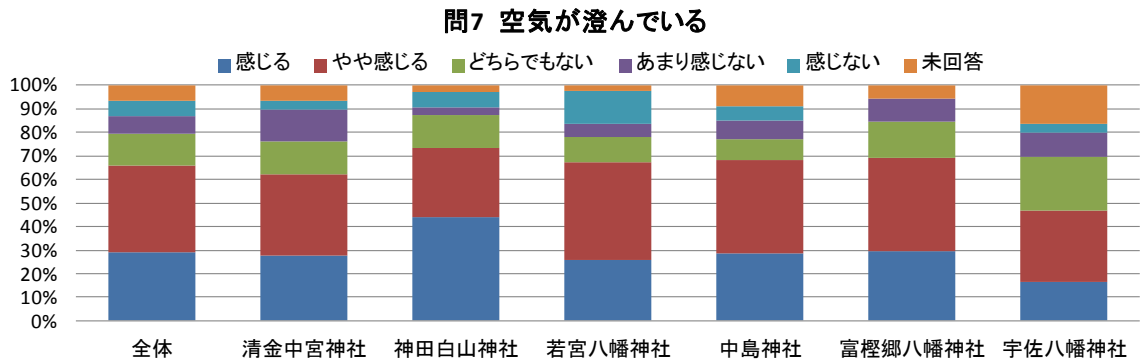


図 4-20 問 7 のアンケート結果の続き

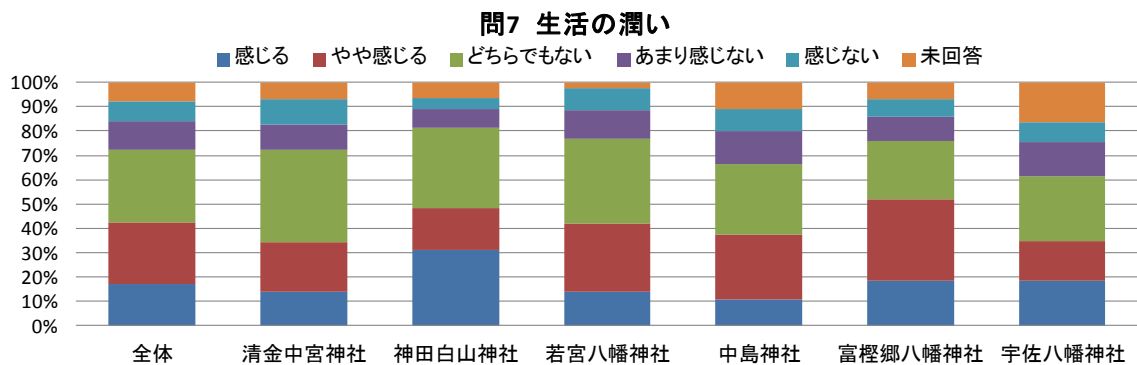
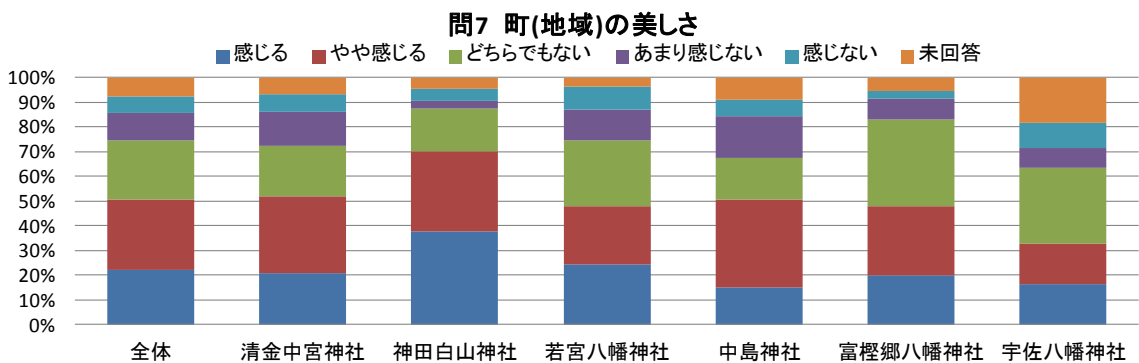
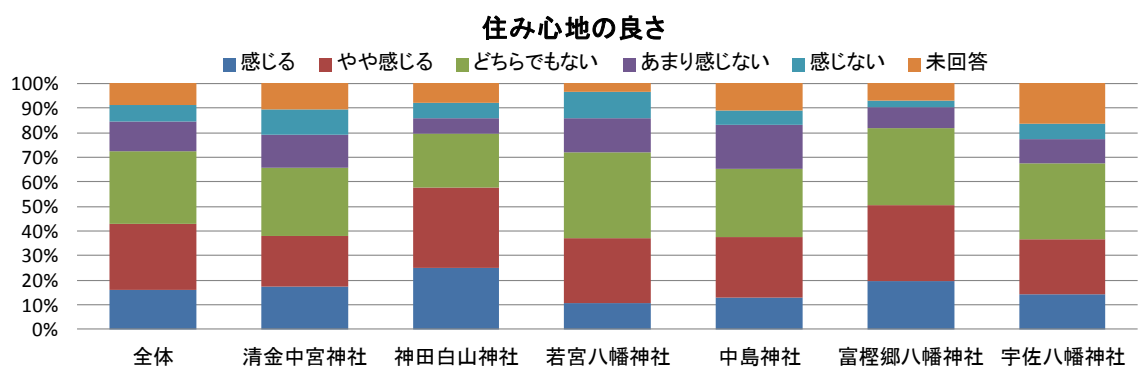
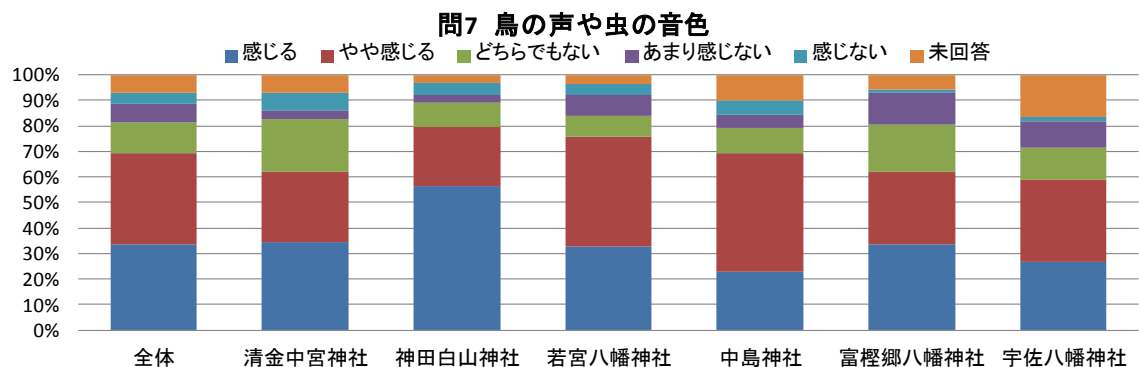


図 4-21 問 7 のアンケート結果の続き

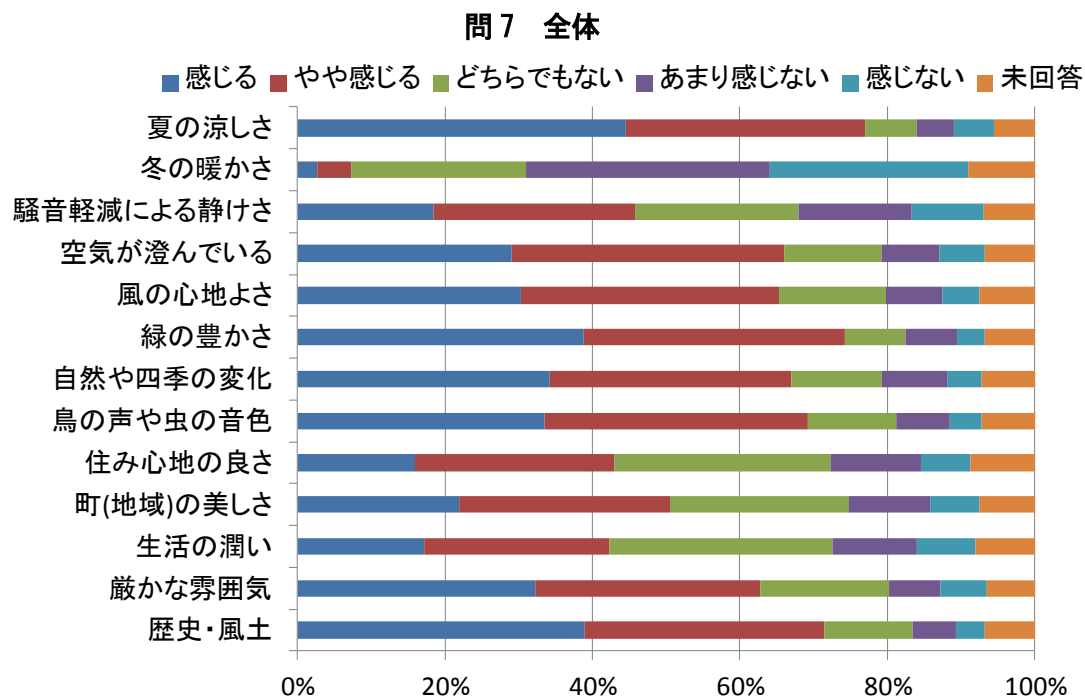
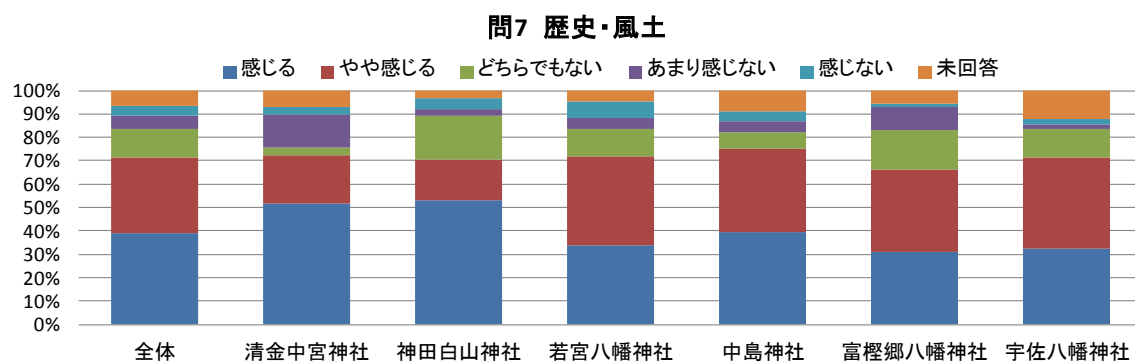
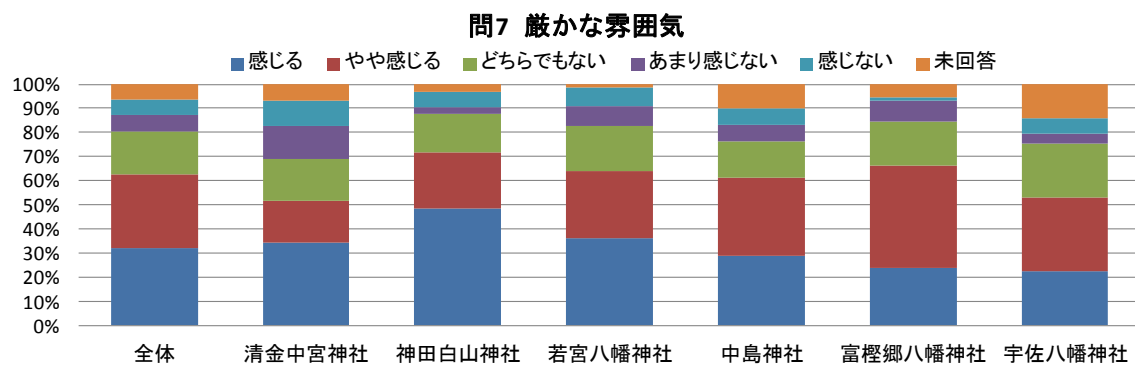


図 4-22 問7のアンケート結果の続き

問 8 の社寺林の保全・保護についての質問では、神社の立地条件によって差が見られた。全体的に社寺林を保全・保護すべきという意見が 7 割程度であったが、緑の規模が小さい神社は保全・保護に肯定的な意見が少ない傾向であった。特に清金中宮神社の周辺住民の保全・保護に否定的な意見の割合が多い理由としては、完全独立タイプのため、景観性は良いが集落から離れていることが原因だと考えられる。

問 9 は神社の歴史や成り立ち等の質問項目であり、全ての神社ではないが名前の由来や神社の期限等の貴重な意見を得ることができた。中島神社に関しては回答者の約半分の人の居住期間が 50 年以上であり、歴史に関する記述が多かった。

問 10 の自由記述欄では社寺林は町内のシンボリック存在や神聖な場所等の意見が多く見られたが、維持管理が大変等の意見もあり、課題も発見された。立地条件別の問題点は神社の周辺に住宅等があまりない社寺林は景観性に優れているが、周辺住民が少ないため維持管理についての意見が多い傾向であった。また、集落付近や緑の規模が大きい神社は自然を身近に感じられ、防風林などの役割もあるが、落ち葉の始末が大変という意見が多く見られた。

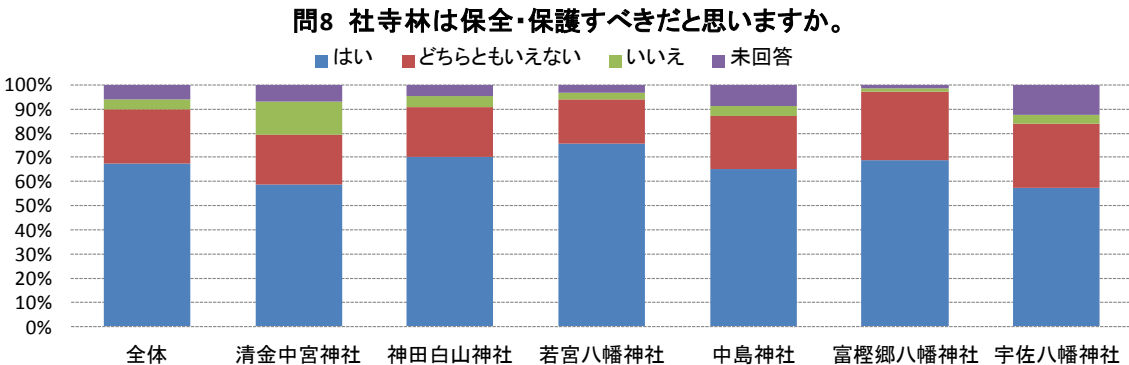


図 4-23 問 8 のアンケート結果

表 4-5 アンケートの自由記入欄(抜粋)

問 4	(神社の名前)神社はこの地域のランドマーク(象徴、目印)的存在だと思いますか。また、理由があればお書き下さい。
はいの回答	
清金中宮神社	・水田地帯に独立しているので。 ・道案内する時の目印になるから ・元旦 AM7:00 町内初参りをスタートに年間通し定期的な参拝行事があります。町民はそのことに理解を示し、また古来より神社にはその町(村)にランドマーク的存在であり今日においてもそれは根強い。
神田白山神社	・地域では数少ない「郷社」であり、境内が非常に広い。格では「県社」「郷社」「村社」の順 ・面積が広く、大きな樹木におおわれているから ・昔からあるようですから、地域の行事はこの神社中心になり、住人が集まっていると思う
若宮八幡神社	・昔から残る唯一の場所である。子どもが小さい頃は、祭りや子供会な

	どでお世話になったので。 ・宅配やサービスや、初めて来る人に説明する時にいつも「神社の前の家です」と言っている。 ・村のシンボルの存在、又、誇りでもある。
中島神社	・町文化財に指定になっている様に歴史がある。 ・秋祭りは地域の大事な行事となっている。厄年のお祓いは地域の人が参加している。
富樫郷八幡神社	・伝統と御先祖に敬意を表し町の融和に繋がる。参拝はもちろんですが、災害時等には、誰もが地域住民が周知している場所である目印になる。 ・大きな木があるのでわかりやすい。 ・昔からあり不動のもの。他の公共施設等のように移転することはない。住民が支えているのが、目に見える一つの形態。
宇佐八幡神社	・自然に生かされ、その法則に少しでも自分を律して人と人の和の中にと昔から続く地域の祭事等に参加しております。 ・小さい町内でも道案内には便利だ。年寄りの心の拠り所。
いいえの回答	
清金中宮神社	・集落から離れておりあまり目立たない ・町の祭り行事で行くだけだから
神田白山神社	・団地に住み人にとって、他の集落の神社は行くことがない。
若宮八幡神社	・道路から離れていて知らない人には存在感がありません。 ・古くから居住している人にとってはランドマークと思う。移り住んだ者にとってはそうはならない。
中島神社	・町横道に小学校があるため、小学校が目印になると思います。 ・主要道から入り込んだ場所にある。時代と共に生活様式も変化し、神社そのものの存在価値が問われている。 ・参拝等の行事でしか使用しない。
富樫郷八幡神社	・神社のある集落の人にとってはそうであるかもしれませんが、他の地域から見るとそのようには感じない。 ・自分の家の近くの神社の方に行きます。
宇佐八幡神社	・幼少からこちらに住んでいる訳ではないので愛着もない。

問 5	日常生活の中で社寺林は役立っていると思いますか。また、そう考える理由があればお書き下さい。
はいの回答	
清金中宮神社	・清金 1 丁目に公園がないため、こどもの夏休みや休みの日にちょっとしたおさんぽコースになっています。木がしげっているので日かげで虫とりにいいです。 ・緑が少なくなっているため、貴重な緑林（野生動物、大気洗浄）
神田白山神社	・神社の又、昔からの伝統を守るという人々の心いき、素晴らしいものがあります。季節のうつり変りは楽しみです。鳥の鳴き声もセミの鳴き声も楽しみです。

	・子供たちの遊び場 ・散歩の場（年寄りの方） ・暴風をやわらげてくれたり、木陰を作ってくれる
若宮八幡神社	・防風、大きな木は神秘的存在。 ・地域のシンボルとして何となく安心できるから。 ・社殿を守り、社殿を取り巻く神聖な場所だから。
中島神社	・鳥や昆虫にとっての生態に重要。 ・日常生活の中で説目の年中行事あり、それが生活の支えになっている。 ・農村風景の一部となっていると思われる。
富樫郷八幡神社	・地域住民の拠点になっている。大樹等から、荒天を守っている。（強風で倒れる心配もあるが、風を吸収してくれる場合もある。） ・清掃や維持は大変だと思いますが、あまり外に出歩かない自分にとっては木々に囲まれて自然を身近に感じることができるので貴重です。 ・夏は近くの保育園の散歩コースとなっています。緑が多く日陰があり、ひと休みする場所として役立っています。緑に囲まれた神社は荘厳な雰囲気が出て、清涼感やパワーをもらいます。
宇佐八幡神社	・町内の中心的な場所になっているから ・子供達が寄って遊ぶ所、夏休みはラジオ体操をする所、大人になっても忘れられない懐かしい場所。 ・四季を自由に感じられる場所。大木を見ると自分の感じ方や考え方が小さいと改められることもある。
いいえの回答	
清金中宮神社	・家から離れており、あまり行くこともない
神田白山神社	記入無し
若宮八幡神社	・清掃が負担に感じることもある。そのことに罪悪感を感じることも。 ・黒い茂り、見通しが悪く危険。 ・毛虫の大量発生、落ち葉の問題等。
中島神社	・以前までは、境内の落ち葉を集めて、堆肥する人がいたようですが。まわりの宅地内へ枯枝、枯葉が落ちるようでたまに苦情も。 ・立ち木を切ってしまったから。 ・夏は非常に蚊が多く、近づけない。
富樫郷八幡神社	・現在はほとんどない。
宇佐八幡神社	・小規模で社寺林と言われる程ではない。

問 8	社寺林は保全・保護すべきだと思いますか。また、そう思う理由があればお書き下さい。
はいの回答	
清金中宮神社	・神社と一体であると思う。神社が町内にとって重要であるから、林も分けて考えられない。 ・あちこちに道路が増えてこの辺りの田園風景も 30 年余りでずいぶん変化しました。町（村）に必ず神社が存在し一年間の生活にその役割を担ってきました。保全・保護は当然と思われます。

	・歴史もあり、先祖から受けついできたから
神田白山神社	・先祖から受け継いだすばらしい環境は、現在以上に保全・保護すべきである ・町では住宅開発が進み緑地が減少する一方であるので社寺林の保全はせめてもの一角である。 ・神社は子供たちの遊び場になるので保存すべき。また自然を残しておくため保全が大切。
若宮八幡神社	・神社は地域の氏神様なので、なくしてはいけないと思います。その為にも保全・保護すべきです。 ・子供達の遊び場、住民の憩いの場、自然との共生、自然美等を目的にもっと保全・保護に力を入れて、整備すべきだと思う。 ・田園地域で公園等が少なく、人々の安なごの場所として、整備・保全の必要を感じる。
中島神社	・小さい頃は、カブトムシやクワガタが沢山いたが、木の伐採でもうほとんどいなくなった。植樹の必要を強く感ずる。 ・社寺林は集落形式の歴史と共に歩んできた。神仏を崇める生き方は、集団生活のまとまりの根幹をなすので、昭和40年頃までは諸行事が大事に継承されていた。しかし、社会・経済・生活形態（核家族化、老化、軽便化、娯楽面の拡大など…）の変動の中で自分の家以外の事は面倒であり、信仰・崇拜の心情が薄れていった。然し、神社の祭り行事は賑やかなイベントとして衰えることなく盛んである。（過疎地は衰退）せめて、この事から祭り行事を歴史的を考えるキッカケ（敬神・敬祖の意義・確認・継承）作りの為にと社事の環境保全は大事な事だと思う。 ・現在老人会の皆様が管理していらっしゃいますが、段々人員が少なくなっていくのと若い人に言い伝えていこうにも核家族の生活ですから。神社・仏閣は昔からの人の心の拠り所だと思うので大切にしたいと思っています。
富樫郷八幡神社	・社寺林がないと、神社はまったく味気のないものになってしまう。（神社）+（社寺林）で一つの形を作っているの。 ・各地域に自生している樹木はとても貴重であると思います。人工的に植えられた公園の樹木のようなものはものに無い価値が感じられます。 ・せっかく残っている自然なので保全すべきである。
宇佐八幡神社	・やはり昔からの農村であるので神社は町内での重要な存在である。 ・実家近くを歩いたり、車を運転していると、「ここは昔田んぼで風揚げしたのに、今じゃ家が建ち景色が変わってしまったな…」と寂しい気持ちになることがあるが、昔遊んだ神社を見ると、「昔ここで〇〇したな～」と懐かしく思うことがある。近所の子供達も神社で鬼ごっこしたり、虫を捕まえたりしてる姿を見かけるので、そういう子供達にも、昔を思い出せる場所は大切だと思うし、利用する人は減ってくるだろうが、昔ながらの建物は残して欲しいと思う。 ・町内の歴史なので。
いいえの回答	

清金中宮神社	・公園の充実でいいと思う
神田白山神社	記入無し
若宮八幡神社	記入無し
中島神社	・鎮守の森としての役割がなくなり、荒れ果てるばかりで伐採が優先されている。
富樫郷八幡神社	記入無し
宇佐八幡神社	記入無し

問 9	(神社の名前) 神社についての歴史や成り立ちなどを御存知でしたら下記に記載をお願いします。
清金中宮神社	・久安 6 年、第 76 代近衛天皇の頃(1144 年)、明応年間第 104 代後柏原天皇の頃の創建(1492~1500 年) 表宮(天照大神)、中宮(応神天皇)、後宮(菅原道真) 明治 39 年神社法の改制により三社を合祠する。これにより清金中宮神社とした。 ・親から教わった話とか、歴史書から考えますと、明治初期には 3 社(表宮・中宮・裏宮)あったようで、その後合祭される。当時の小さな集落を考えますと氏子の崇敬の念がすごいと思っています。私は見ておりませんが神様は石であると言う伝説。私の子供の頃は神社は日常遊ぶ場所でありました。特に夏休みに入ると勉強したり、涼みの場所でもありました。私の子供達迄は夏休み中、朝のラジオ体操は行っていました。
神田白山神社	・奈良時代僧行基安養寺を起す。江戸時代から 50 年毎に御神体の十一面観音の御開帳あり。明治になり、神仏分離により白山社、明治期に神田白山神社となる。大正期に郷社に昇格、式典等を挙行。平成 9 年に社殿大改築事業を行い十一面観音の御開帳等の祝賀行事の挙行記念誌の発行等を行う。 ・私の祖父が書き記したものに安養寺神社誌があり、それを読んでかなり知っている。当町の神社を平成 9 年に新築した際に当町の有志が神社誌を改めて発刊しており、町民一同熟知している。
若宮八幡神社	・「石川郡神社由緒記」によると天徳二年(958)に創記されたとある建長六年(1254)には「武内等旧社記」には日向神社鎮座した云々とあり、平安、鎌倉前期には存在していたようだ。現在の神社殿は明治 40 年(1907)に八幡社と高皇産霊社が合併して建立されたものと言われているので 100 年以上経っている。<館畑のあゆみ 429p より> ・白山宮の末社で日向神社と称したが明治になって、若宮八幡神社と変えたと思うが？ ・もともと日向には、2 つの神社があり、それを一つにまとめたものである。
中島神社	・昔は藤蔵地区にあったが、大水で流されて、今の場所に流れついたと聞きました。御神体は見ると目がつぶれると言われてました。御神体は、川原の石だと聞いています。 ・川北町の集落は、手取川との繋がりが深い。そんな関係で水害から社を守るために社の周りに土手を作ったり、木を植えたりしたと思われる。

	また風を防ぐために、ツバキやサザンカの木で防風の役目もあったが、アメシロや茶毒蛾等が発生するため数年前から無くした。 ・神社の起源は、1831 年(天保 2 年)だと言われています。今から 182 年前…。現在の社殿は、1914 年(大正 9 年)に再建されたそうです。今から約 100 年前。この神社は昭和 9 年の手取川大洪水で、上の藤蔵区の笹葉神社が流れてきて、合祀されたという。社殿には、豊富な彫刻が施されている。彫刻師(流れ者)が、ケヤキの 1 枚板に彫ったものだそうで、この彫刻は、町有形文化財に指定されている。以上、川北町史(第 3 巻・集落編)による。 ・川北村史では、社伝によれば天保 2 年に白山の社僧小式坊が中島に在住し神社を円通宮と称したという。文久 3 年本堂再建、明治 8 年白山社から中島神社へ名称を変更した。 ・現在の中島神社は大正 2 年に新築されたものです。神社は皆「八幡神社」とか「栗島神社」とか名前がついております。これは、「古事記」や「日本書記」に出てくる「スクナヒコナミコト」や「アマテラスオオミカミ」の神体ですが、中島神社は手取川の石が御神体であると伝えられております。それで中島神社とされているとか…。
富樫郷八幡神社	・祭神 第 15 才応仁天皇 荒屋は昔富樫郷にあって林組に届いた槻橋近江之守は木越加娑の弟にて 8 才より富樫郷政親の近習として 12 年間仕え厚恩をえて、荒屋村を賜り、天正 11 年(1583 年)4 月豊臣秀吉の制札には石川郡新や村とあり、寛文 10 年(1670 年)荒屋村と記され、地名の由来も僧坊が、荒れ果てて荒屋と名付けたと言われる。 ・八幡神社についてあまり詳しくありませんが、白山一の宮は全国 3000 の末社の本社であると聞いています。
宇佐八幡神社	・昔、県道の三反田線の所にあったが地区住民が、神社の上流に移り住んでいったので誰かの夢に出て、自分も移りたいと言ったそう。それで現在の場所に移転した。 ・応神天皇が祭神、九州大分の宇佐八幡宮が本宮。 ・1470 年園道観(富樫一族)が食糧倉庫を建て神社を造る。宇佐と言う由来は富樫。高家南北時代、北朝と南朝の戦いに参加、高家は北朝付き南朝に大分宇佐まで攻められた。高家は北朝の勝利を願い宇佐八幡宮を参った。その時強い南風が吹き革に火を付け見る見るうちに火の海になった南朝の放火が広がっていった。北朝が勝利し、高家が高尾へ帰り、地元の要望により神社を建てる。その神社を宇佐宮と言う。

問 10	社寺林についての自由記入欄
清金中宮神社	・神社の管理・清掃は旧村（1、2 丁目）の者のみが行い、団地（3 丁目）の者は参加しません。祭りは合同で行うようになりましたが・・・ 1、2 丁目は高齢化が進み、いつまで管理できるかわかりません。旧村の住人と団地の住人と分けるのではなく、町内全体で守っていったらよいと思います。 ・私達のこどもの頃は遊びに出かける事（外出）が少なく神社になどで

	年上の人達と遊んだ記憶が残っている。又、大人の人の神社を大切にしている姿も多く見ていたように思います。現在はどうか？と思うと神社の行事さえこども達の参加が少なく、この子達が大人になった時神社に対しての思いは薄れていてどのように関わっていくのか？・・・。清金は町内の人数も少なく同居する若世帯もない家も多いので保全に対して期待は難しいと思います。 ・町内としてのまとまりの面で、神社には“集う”目的で行事もあります。公の場であり、個としての単位がここに集って一時をすごす。緑を守りつつ“拝む”という姿勢は各家々の神棚はもちろん、この町内のランドマークとして町民が守っていくべきものであると思います。
神田白山神社	・手入れは大変です。できれば村の住民でなく、白山市の方でお手伝いして頂ければ幸いと思っています。村の方も、お年を召された方が多くなり、私も神社掃除に出席回数も少なくなっています。 ・社寺林及び社寺を守るには氏子の必要があり、大変である。町内のシンボリックな場所であるが、先祖からの送り物として受け取り、大事にする事を未来の子供達にも理解してほしい。 ・静かな中で、交通事故の心配もなく子供の遊び場として最適。
若宮八幡神社	・近隣の社寺林を觀ても管理面で伐採のケースが見受けられます。保全・管理すべきかどうか難しい問題だと思います。 ・病虫害から守る事が大切であるが苦勞している。台風による倒木、枝折れにも注意するも仕方がない。落葉の始末も大変である。成長するので枝下ろし剪定も大変。維持管理が大変であるがしっかり守って行かなければならない。 ・神社の森はやや廃れてきているが、それぞれの町内のシンボリック的存在として、厳かな森に囲まれてこそ、その存在としての価値があると思う。
中島神社	・参りや祭りなどを通して、若い世代にも引き継いでいけるイベントなどがあれば、大切に存続されるのではと思います。 ・有る事は理想なのですが、それを管理、世話する方が居れば良いですが、段々と難しくなってくると思います。枝が折れたり、落ち葉が屋根を傷めたり、大変な事も有り、一概にただ保全して欲しいと願うにも問題が有ると思っています。(中島神社は少なくなりました。) ・平成2年大樹を数本伐採した。建物を傷めるため、掃除が大変なため。後日、森(宮)の鎮守が寂しくなったとの批判があった。大樹がなくなってから、カブトムシ等が見られなくなった。近年、境内を石囲で新調した(参道も新調した)。記念樹が数本立っている。
富樫郷八幡神社	・過去に社寺林を伐採した神社を幾つか見たことがあるが、一変で趣が台無しになった気がする。 ・月に一度掃除の日があれば、更に存在感が増すのではないかと思います。小学生・中学生にお願いできないだろうか…。 ・神社は地域のもので地域(の人たち)が守るという考え方が一般的なのかなと思いますが、昔と違って地元の人以外の人たちが多く流入し居住している今では、そういうやり方が難しくなっているのではないかと

	思います。私たち 40 代が、あと 20 年ほど後して現在神社のお世話をしてくれている方々のようにできるのか?聞かれるとうなずく自身がありません。行政や近隣の地域の方々と連携しながら、何とか維持していくことができればよいと思います。
宇佐八幡神社	・落葉樹は周りの家に迷惑になります。常緑樹にしてほしいです。 ・昔から神社は誰にも気を使わずに遊べる場所として最高の場所でした。小さい時から、神様の居られる場所として子供心にも、心を正す場所のようです。悪い事の出来ない、目に見えない清らかな場所だと思うのは、この年寄りだけだと思います。 ・小さい頃は、隣村とか、近くの田んぼが、木が茂って見えないくらいでした。今は、その木も大分傷んだんで所々枯れたり、虫が食べたりして、隣村とか見えて、明るくなって月日の経ったことを知らせているようです。やっぱり木が周りがあると落ち着きます。

4-6 集落別の考察

今回の配布場所の中で清金中宮神社、神田白山神社、若宮八幡神社、宇佐八幡神社のアンケート配布は離れた集落にも投函したため、集落別の比較考察を行った。集落別の考察では神社の認知度とアンケートの回収率を中心に比較し、分析で使用するアンケート結果は投函した住宅が明確に分かる結果のみとする。予備封筒や封筒番号の塗りつぶしがあった封筒等は地図上での位置を表すことが困難であるため除外する。

投函数と回収数の詳細を見易くするため表 4-4 を再掲する。

表 4-4 アンケートの投函と回収結果(再掲)

選定した神社	配布場所	実際に配布した数(通)	封筒の回収数(通) [人]	回収率(%)	備考
清金中宮神社	清金1丁目	23	11[19]	36	
	清金2丁目	9	3[4]		
	福正寺町	18	4[6]		
神田白山神社	安養寺町	33	19[34]	42	予備封筒の返却有(1通)
	鶴来桑島町	51	16[30]		
若宮八幡神社	行町	62	20[33]	34	予備封筒の返却有(1通)
	日向	63	24[40]		
	七原	23	7[13]		
中島神社	東	53	29[48]	59	白紙の返却有(1通)
	西	49	31[53]		白紙の返却有(1通)、予備封筒の返却有(1通)
富樫郷八幡神社	荒屋町	31	16[26]	52	予備封筒の返却有(1通)、白紙の返却有(1通)
	道法寺町	48	25[45]		番号の解読不明封筒有(1通)、予備封筒の返却有(2通)
宇佐八幡神社	藤木町	26	15[29]	43	
	藤波2丁目	41	14[20]		
合計		530	234[400]	44	

・清金中宮神社

配布場所の神社からの距離は清金1丁目、清金2丁目、福正寺町の順に近く、図4-25から距離に近い程アンケートの回収率が高い結果となった。配布したどの地域からも対象の神社を観ることができるが、福正寺町の認知度と回収率が低い理由としては福正寺町に神社があることと対象神社から離れていることが要因だと考えられる。



●:対象の神社、○:他の神社、○:配布範囲
図4-24 清金中宮神社周辺の配布場所

問1 清金中宮神社を知っていますか。

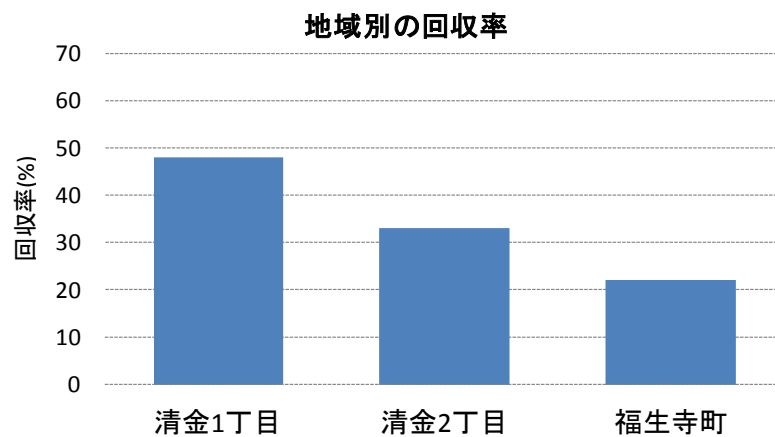
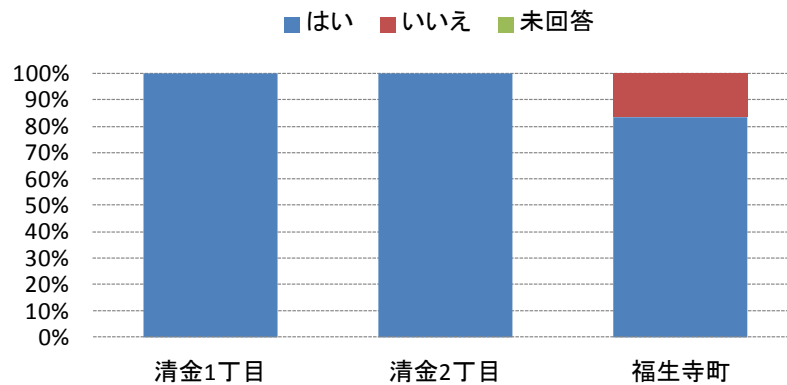


図4-25 集落別の調査結果

・神田白山神社

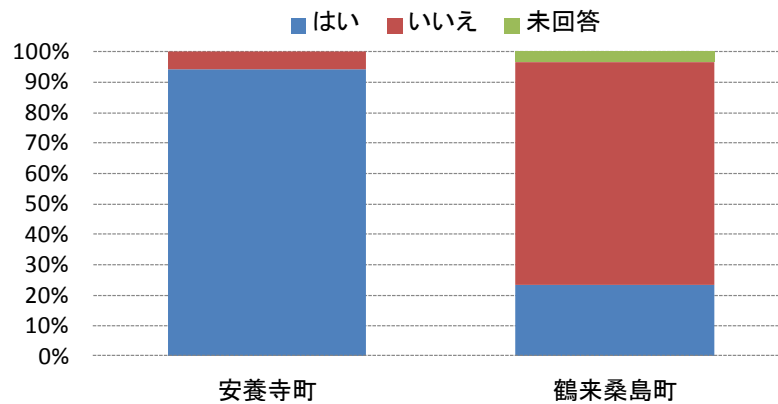
安養寺町の認知度と回収率が高かったが、鶴来桑島町の認知度と回収率が低い結果となった。理由としては、鶴来桑島町は新興住宅地であり、近くに別の神社があること等が考えられる。



●: 対象の神社、○: 他の神社、○: 配布範囲

図 4-26 神田白山神社周辺の配布場所

問1 神田白山神社を知っていますか。



地域別の回収率

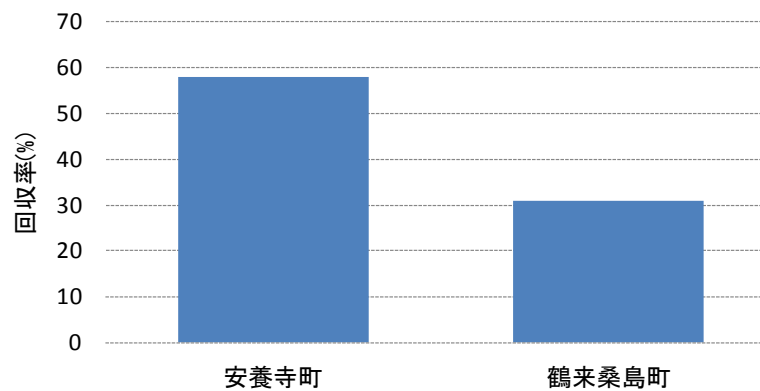


図 4-27 集落別の調査結果

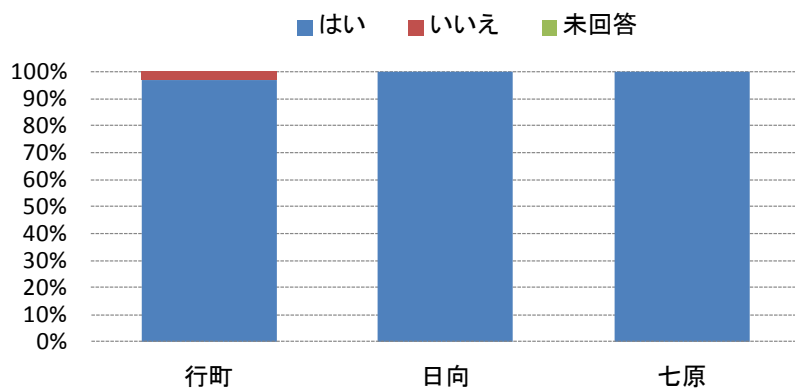
・若宮八幡神社

行町と七原は新興住宅地であるが、どの集落からでも若宮八幡神社が観えるため、認知度と回収率に殆ど差がなかった。全体の回収率は低かったが、回答者から神社の維持管理に関する意見が多くあり、神社を保全・保護すべきという割合が高かった。



図 4-28 若宮八幡神社周辺の配布場所

問1 若宮八幡神社を知っていますか。



地域別の回収率

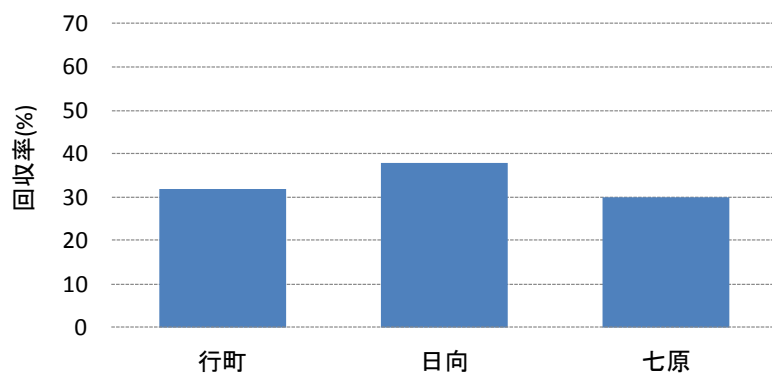


図 4-29 集落別の調査結果

・宇佐八幡神社

藤波 2 丁目は新興住宅地であり、集落内に神社はないが、宇佐八幡神社を知っている人の割合が配布場所の集落の中で最も低かった。宇佐八幡神社は中心タイプであり、高さがある樹木もないため、藤波 2 丁目の住民の認知度が低い結果になったと考えられる。



図 4-30 宇佐八幡神社周辺の配布場所

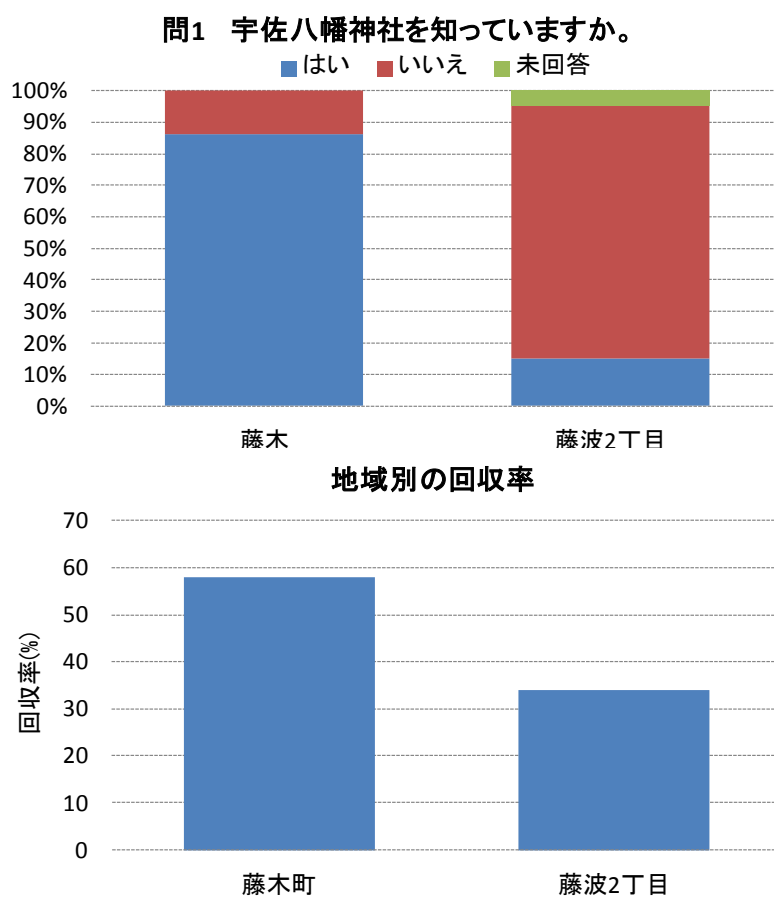


図 4-31 集落別の調査結果

4-7 まとめ

アンケート結果から全体的に社寺林を保全・保護すべきという意見が多く、主に自然的機能、地域の象徴、心の拠り所といった役割があることが確認できた。自由記述欄から水田地帯の社寺林の特徴として景観性が優れているため、目印や地域のシンボルという意見が多かった。しかし、維持管理が大変や落ち葉の掃除が面倒等の問題点が確認でき、改善の必要がある。

神社別では緑の規模が最も大きい神田白山神社の評価が問5と問7を中心に高く、緑の規模が大きい程日常生活で役立っている傾向にあることが分かった。問4の結果から水田地帯の社寺林は立地条件によって象徴性が大きく変わることが確認できた。自由記述欄の内容を比較すると、神社が集落から離れていると落ち葉の被害があまりないが、維持管理が大変といった意見が多く見られた。また、集落の中心や集落との距離が近い場合は自然を身近に感じられ、訪れる頻度が高いが、落ち葉や枝等の自然的な問題点の意見が多く見られた。このことから社寺林の立地条件によって景観性や訪れる頻度で差が見られるだけでなく、問題点での差も見られた。

集落別では神社からの距離や集落から神社が観えるかによって認知度と回収率の差が大きく出た。

今回、神社による特徴や住民の意見から以下のような神社別の結果が得られた。

・清金中宮神社

完全独立タイプのためランドマーク的存在だと思う人が多かった。景観性に優れていて周辺住民の住宅の敷地内に落ち葉や折れた枝等の始末の心配がないが、神社の周辺住民が少ないため、今後の維持管理に関する意見が多く見られた。

・神田白山神社

選定した神社の中で最も緑の規模が大きく、周辺住民の機能・役割に関する評価が高かった。また、緑の規模が大きいだけではなく、敷地内に遊具があるため、昆虫採集や子どもの遊び場としての役割があるといった意見も多く見られた。樹木が多いため、防風林としての役割があるといった意見もあったが、落ち葉の清掃が大変であり、不満の意見も見られた。

・若宮八幡神社

神田白山神社に次ぐ緑の規模であるため、防風林の役割があるが落ち葉の清掃が大変といった意見が見られた。また、神社の周辺住民は多い方だが維持管理が心配いう意見が多く、アンケートの回答者からは自然豊かである神社を保全すべきという割合が高かった。

・中島神社

選定した神社の中でアンケートの回収率が最も高く、地域住民の社寺林に対する意識が高い傾向にあった。居住期間が長い人が多かったため、歴史に関する記述が多く、神社の手取川との関係や樹木の伐採について等を知ることができた。神社の敷地内は良く

整備されているが、神社の隣に小学校があるため災害避難場所としての機能・役割があまりないという意見が多く見られた。

- ・富樫郷八幡神社

配布範囲内の神社の認知度は低かったが、神社付近に遊具があるため神社に行く目的(昔)として子どもの遊びの意見が多く見られた。また、現在も神社付近の保育園の散歩コースとして利用されており、水田地帯の神社の中では若い年代の利用者が多い傾向にあった。

- ・宇佐八幡神社

中心タイプであり緑の規模が小さいため、社寺林としての機能・役割の評価が低かったが、集落の中心にあるため現在も昔も訪れる頻度が高い傾向にあった。他の水田地帯の社寺林と比較すると中心タイプであるためランドマーク的存在だと思う人が少なく、他の水田地帯の社寺林との差が見られた。